

令和2年度徳島県復興指針推進委員会 議事録（概要版）

日時：令和3年2月24日（水）
午後2時00分～午後4時15分
場所：徳島県庁10階 特別大会議室

出席者

【委員】中林委員長（Web）、石本委員、井上委員、井若委員、金田委員（Web）、坂田委員（Web）、定池委員（Web）、佐藤委員、中野委員、沼島委員、福井委員

1 開会

2 政策監挨拶

3 議題

（1）徳島県復興指針に基づく事前復興の取組について

資料1及び資料1-2により、事務局から説明

（2）令和3年度事前復興の取組について

① 資料2により、各部局から建制順に説明

② 資料3により、事務局から説明

（3）その他

4 閉会

令和2年度徳島県復興指針推進委員会での主な意見等について

◆ 応急仮設住宅建設に係る人材育成について

（委員）

資料1の590番で、応急仮設住宅建設を考えられることのできる人材育成に取り組むとあるが、具体的な取組について教えて欲しい。

（県）

被災後の復興を支える人材を育成することを目的に、「復興まちづくりイメージトレーニング」を平成28年度からワークショップ形式で実施している。

（委員）

仮設住宅が復興の拠点でもあるので、市町村職員に対して仮設住宅から復興まちづくりまでをイメージしてもらおうというトレーニングを継続していくことが重要。

◆ 避難所の新型コロナウイルス対策について

（委員）

避難所のコロナ対策で、今年度見直したことで、市町村に対して講じた対策は。

(県)

県民に対しては、既存の避難所に限らない「分散避難」の呼びかけ、市町村に対しては「サブ避難所」の確保に取り組むとともに、感染症対策の流れをシミュレーションし、DVD等で啓発しており、今後市町村等において実践してもらう。

(委員)

コロナだけでなく、普段の災害時もインフルエンザ等感染症対策が重要になってくると思う。

◆ 新型コロナ禍における災害ボランティアについて

(委員)

431番で、南海トラフ巨大地震などの巨大災害では外部からの支援がなかなか入ってこないことが予測されるため、地域内で対応した熊本の取組（令和2年7月豪雨）なども事例として残しておくことだけでも役に立つと思う。

◆ 被災後の学校再開等について

(委員)

学校の再開にあたって、デジタル化についてどこまで考慮されているか。

(県)

文部科学省の「GIGAスクール構想」等により、小学校から高校まで一貫したタブレット端末を整備している。また、来年度に向けタブレット端末を活用した授業に関する研修を行っている。

(委員)

被災後の学校再開にあたっては、デジタルを活用することも非常に大事。

民間事業者については、今後BCPを展開していく際に、テレワークなどの新しい働き方での業務継続、事業継続のやり方が、いろいろでてくるのではないかな。

◆ 復興まちづくりについて

(委員)

復興まちづくりについて、住民を巻き込んだ勉強会が必要と思うが、そうした意味での取組はあるのか。

(県)

来年度「事前復興まちづくり実装事業」において、県内1地域で住民の合意形成の手法についてのモデルケースの構築を図るとともに、県下全域に広げていく取組を考えている。

(委員)

住民がこの先の復興がどうなるかというのを考えてもらい、行政との間で話し合っておくことが重要である。

また、職員についてもイメージトレーニングを通じて職員に理解してもらった後、町の皆さんと一緒に復興を考える中で、啓発される部分も多いと思う。

◆ 市町村間の連携について

(委員)

復興まちづくりについて、各市町村での取組やイメージトレーニングの内容、問題点等について、市町村間での情報交換、共有ができればよいと思う。

(県)

市町村の役割が非常に重要であるが、市町村の「ニーズ」を把握し、県がコーディネートしながら現場で市町村が動ける形をしっかりと整えていきたい。

◆ 今後の事前復興の取組評価について

(委員)

令和3年度の予算、事前復興の取組というところについては、目的、理念、主体の役割がどこまで進んでいるかという見方で評価していただければと思う。

(県)

資料1では、今何をすべきかという観点で整理をしたところであるが、項目数が多いことから、整理も踏まえて全体が見えやすい形の議論の進め方についても検討をして参りたい。

(委員)

来年、再来年と積み重なったときに、継続して見直しをしていたところと、何もしていないところがでてこないようにしないといけない。

◆ コロナ禍における伝統文化の継続について

(委員)

コロナ禍で、色々な伝統芸能などが従来どおり開催できなくなってしまっている中で、ビフォーコロナの状態に戻していくこと、アフターコロナに適応できる状態を残すということの両方が必要だが、そのような取組が検討しているか。

(県)

デジタルアーカイブ化を進め、伝統芸能の継承や技術の保存を映像で残していくという取組は重要であるので、引き続き取り組んで参りたい。

(委員)

伝統文化、芸能の記録を集め、デジタルアーカイブ化する取組、非常に重要だと思う。

◆ 施設の耐震化について

(委員)

本棚の耐震化や本の落下防止が、事前復興の取組の中に既に組み込まれているのか、今後検討する予定があるのか。

(県)

対応状況を改めて回答させていただきたい。

→担当部局によると、本棚は床や壁に固定しており、本が落ちにくくなるよう、一部の本棚では滑り止めテープを貼っているとのことであった。

(委員)

図書館の復旧においては、本当に本を元に戻すのが大変という話を聞くので、御確認いただければと思う。

◆ スクールカウンセラーによる支援体制の構築について

(委員)

「生徒に対してのストレスへの対応等の授業を実施し、自分の心の状態を理解するとともに、緊急時における心の健康に関する知識を身につける」ことは、セルフケアやストレスマネジメントとして、自分で身につける、自分でできるようになる、ということか。

(県)

セルフケアという考え方を含んでおり、特に、一人で悩まないというところ、相談窓口があるというところまで理解して、1人1人の生徒の心の健康を保つというところを重点的に、学習を行っている。

(委員)

セルフケアの後に、学校の先生やスクールカウンセラーなどに相談できるという体制を作って、日常的につなぎができるようになっていくことは非常に大切だと思う。

◆ 市町村における事前復興の取組について

(委員)

阿波市や海陽町が復興指針や基本方針の作成の検討ということで一番進んでいるのか。また、データ整理は初期段階で、体制検討や手順がもう少し進んだ取組か。

(県)

復興指針等の検討、データ整理について、どちらを先にしたらいいかというものではなく、各市町村の判断になるので、我々が、どちらが進んでいる、進んでいないということは言えない。

◆ 災害時における県職員の健康管理について

(委員)

自治体の職員が、被災して平時とは全く違う業務形態が1か月、2か月続いたときに、カウンセリングしていくというのは復興指針に書いたか。

(県)

資料1の115ページ、職員厚生課としてのメンタルヘルスケアの記載をしている。

(委員)

県の職員だけではなく先生のケアも対応していただくことが大事なので、御検討いただきたい。

◆ その他

(委員)

来年はコロナが収まって、進捗管理を含めた本委員会は2月上旬ぐらいに開いて、市町村に対しては内示として県の事業予定をお知らせいただいたほうが、市町村も手を挙げやすくなると思うので、検討いただきたい。

(3) その他

その他御意見については、1週間程度を目処に事務局への提出を依頼

4 危機管理環境部長挨拶

5 閉会

以 上